臥能が丘は绿なり

村松高校東京同窓会会報 平成31年(2019)新春号



新国立競技場

新宿区霞ヶ丘町に建つ地上5階、地下2階、高さ約47.4mの新国立競技場は、8万人収容可能な巨大スタジアムである。明治神宮内苑から皇居へと続く緑の杜と調和を保つため、杉の縦格子で覆われた軒庇を外周に設け、大成建設が2019年11月完成をめざし工事にあたっている。限研吾氏の設計による大和張りなど、日本の伝統的意匠や、木を多用した温かみのあるデザインを内部に施し、日本らしさが溢れる空間になっている。また、日本の伝統的な灯り(ぼんぼり、提灯、灯篭など)をモチーフに、スタジアム全体を柔らかな光で包み込む。もちろん最新の制震構造を用い、安全性は万全である。

歴史を振り返ると、太平洋戦争中の1943年10月21日には、明治神宮外苑競技場で出陣学徒壮行会が行われ、スタンドから6万5千人の女子学生や家族が見送った。旧国立競技場は1964年の東京五輪で開会式を迎えたが、3代目となる新国立競技場は、2020年7月24日に五輪の開幕を迎える。「3代目」は、これからどんな歴史を刻んで行くのだろうか・・・

松高東京同窓会の未来

松高東京同窓会長 大橋 貞夫 (高10回)

会員の皆様に於かれましては、ご健勝にて新年を迎えられたことと拝察いたします。昨年、61回定期大会に於いて4代目の会長に推薦されましたが、改めて会の運営を考えると、会員の高齢化以外に脱退者が増加していて、今後の困難さを感じているところです。

平成23年3月に520名の会員登録をしたが、会費納入者が次第に減少し、平成30年6月には259名と半減した。幹事については、平成21年10月まで58名を数えたが、平成30年6月で22名となり、こうした状況は、少数精鋭と云えば聞こえは良いが、明らかに衰退しているのは間違いない。悲観的なことばかり書いているが、何とかこの状態を転換するため、幹事会に於いては色々と打開策を練っている。例えば、年1回の定期大会を如何にして魅力あるものにするか、会員の皆様にどうしたら参加して頂けるか、或いは魅力的な面白い催し物はどうするかなど知恵を出し合っている。

会則にうたっている目的とは、同窓会本部及び母校と連絡・提携を密にし、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与するとある。その為に毎年、定期大会や親睦会を開いたり、会報誌を発行している。いずれにしても、会員の皆様の積極的な関りが無ければ成しえないことであり、心底よりご協力をお願い申し上げる次第です。

昨年8月に7名の幹事諸氏と本部同窓会に出席したが、 荒木会長が退任され、15回生の高岡雄一氏が新会長に 就かれた。他の役員は留任とのことだが、同窓会本部も 若返りを果たし益々の 発展が期待される。本部 も、会員の参加者数を 如何にして増加させるか、



問題視されていたが、会員の意識の持ちように頼らざるを 得ないのは、当会の悩みと同じようである。

本部同窓会も、連携型中高一貫校や看護科の設置など具体的な活動を続けてこられたが、医師会との連携協力や地域との協力など問題が多数あり、実現しなかった。松高は「塵の巷を遠ざけて・・・」の勉学に努める環境は、揃い過ぎるほど揃っているのに勿体ない話である。かつて、臥竜が丘から、いかに多数の有為な人材が飛び立って行ったことであろう。

卒業名簿によれば、平成12年までの卒業生は200名を超えていた。平成13年から200名に届かなくなり、平成26年には81名となった。因みに定時制高校の卒業生は、昭和57年の11名が最後のようである。こうした生徒数の減少は時代の流れかも知れないが、何とも寂しい限りである。地元の新聞によれば、村松地区の出生率が異常に低く感じられる。こうしたことも一因に挙げられるのだろうか。

母校の渡辺校長先生も種々方策を立てられ、生徒の向上 や学校のPRに努めておられる。素晴らしい環境と先生方 に恵まれ、生徒の皆さんには松城精神を忘れずに切磋琢磨 して頂きたいと願うばかりである。

平成30年度 村松高校東京同窓会 組織表 平成30年6月2日

役	職	名		氏 名					
顧		問	鈴木 多喜男 (高4)	金子鶴男(高5)相談役					
会		長	大橋 貞夫 (高10)						
副		Ħ	事務局担当	総務担当	財務・広報担当				
	会	長	吉井 清(高8)	佐藤 赳(高11)	平山 誠一(高22)				
事	務局	長	吉井 清 (高8) 兼任	事務局員 林	信子 (高25)				
会	計監	查	片柳 ムツ (高8)	阿部 モヨ子 (高22)					
委	員	会	総務委員会	財務委員会	広報委員会				
委	員	長	佐藤 赳(高11)兼任	安中 信夫 (高20)	石黒 勝夫(高14)				
副	委員	長	郡司 正大(高16)	松澤 綾子(高22)	高岡 五百子 (高12)				
委		員	塚田 勝 (高8)	徳永 道子 (高12)	高岡 光夫 (高15)				
			山崎 輝雄(高8)		山田 俊治 (高14)				
			石黒 四郎(高9)						

第62回 定期大会開催のご案内

2019年6月8日(土) ホテルグランドパレス

11:00 受付

11:30 開会(第一部総会)

12:00 第二部 (懇親会・カラオケ大会)

第62回 定期大会を、千代田区飯田橋1丁目の「ホテル グランドパレス」にて開催いたします。 年1回の大会ですので、会員の方はもちろん、ご家族、ご友人など参加をご希望の方、多数お誘いいただき、 ご参加くださるよう、ご案内申し上げます。

村松高等学校 東京同窓会 会長 大橋 貞夫 役員一同

記

時 2019年6月8日(土)、午前11時30分開会(受付開始は11時00より)

場 所 ホテル グランドパレス (千代田区飯田橋1-1-1、Tel:03-3264-1111)

第 第一部 総 会 11:30~12:00

第二部 懇親会 及び カラオケ大会 12:00~15:30

乾杯

・カラオケ大会(審査方法説明)

・表彰式(賞品は、ふるさとの物産を多数ご用意します。)

会 費 お一人8,000円(当日、会場にてお預かりします。)

申込みと締切 2019年5月11日(土)までに事務局へ

カラオケ大会への出場を希望される方へ

4月20日(土)に大会開催のご案内を差し上げる際、詳細をご案内します。

東京同窓会を益々発展させるために、幹事さんを募集しております。会員の皆様方の積極的なご参加を、心よりお待ちしております。

連絡先 大橋 貞夫 🕿: 03-3709-1570 E-mail:sadao-o@gb4.so-net.ne.jp

2019 年度 県立村松高等学校東京同窓会開催のお知らせ

◆日時 2019年6月8日(土)

第62回定期大会

*午前11時半 開会

*12時頃より

懇親会 及び カラオケ大会

◆場所 ホテル グランドパレス 千代田区飯田橋 1-1-1

Tel: 03-3264-1111

◆申し込み 事務局まで

16ページに掲載

交通 ●地下鉄「九段下駅」

- *東西線7番出口より徒歩1分
- * 半蔵門線・都営新宿線 3b 出口より徒歩3分
- ●JR・地下鉄「飯田橋駅」より

徒歩7分



平成29年度 収支決算書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

	費目	決 算 額	備考
	前年度繰越金	616, 554円	
	会 費	1, 229, 000円	
収	(年会費	525,000円)	184名分の会費
	(大会費	704,000円)	第58回大会出席者97名分会費
入	寄付金等	137,000円	
	本部助成金	50,000円	
	雑収入	7円	受取利息
	合 計	2, 032, 561円	
	大会費用	783, 890円	第60回大会経費
	会議室借用費	42, 214円	常任幹事会、幹事会、おけさ会
	広報活動費	234, 264円	会報発行関連とホームページ他
支	通信費	192, 434円	ハガキ代、郵送代他
出	涉外費	132,000円	本部同窓会出席、県人会賛助会費他
	諸雑費	129, 071円	振込代、コピー代、用紙インク代
	合 計	1, 513, 873円	

決算及び収支報告書は監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

平成30年 4月28日

会計監事 片柳 ムツ ⑪

会計監事 高岡 五百子 ⑩

以上の通りご報告いたします。

平成30年 6月 2日 東京同窓会会長 金子 鶴男 印

財務委員長 徳永 道子 @

平成29年度 寄付者と寄付金(敬称略) "まことに ありがとうございました"

80,000円 村松高校同窓会ご祝儀

10,000円 五泉市長ご祝儀、金子 鶴男

4,000円 片柳 ムツ、今井 英雄

2.000円 篠川 恒夫、山崎 輝雄、塚田 勝、吉井 清、石黒 四郎

大橋 貞夫、佐藤 赳、徳永 道子、高岡 五百子、桑原 トム

石黒 勝夫、斎藤 正義、平山 誠一、難波 博之

1,000円 大岩 信也

寄付金合計 137.000円

平成30年度 東京同窓会事業計画

【一般事業】

随

時

随	時	会員名簿・幹事名簿等の加除修正発行及び保管 (総務委員会)
6月	2 日	平成30年度第61回定期大会の開催 会場・ホテルグランドパレス
8月1	9日	本部同窓会総会への出席
2月	E	東京同窓会会報誌 新春号 (NO60号) の発行 (広報委員会)
2月	日	東京同窓会平成30年度決算見込みと平成31年度予算案の策定(財務委員会)
随	時	東京同窓会ホームページの更新管理(広報委員会)
随	時	東京同窓会の運営に伴う会則の改正 (総務委員会)
随	矿	東京同窓会幹事及び会員等研修会の企画立案(総務委員会)
随	時	他校同窓会との交流会等の企画 (総務委員会)
随	時	東京同窓会所有物品の整備及び管理保管 (財務委員会)
【特定	三事業】	
随	時	「甦れ 松高!」 母校の発展を考える会運動の企画及び実施(総務委員会)
随	恃	東京同窓会会員増強へ向けた取り組みの企画及び実施 (総務委員会)

平成30年度予算書

東京同窓会の広報宣伝及び会費増収手法の研究(広報・財務委員会)

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

	費目	予 算 額	備考
	前年度繰越金	518, 688 円	
収	会 費	1,370,000円	
	(年会費	570,000円)	3,000×190 名
	(大会費	800,000円)	8,000×100 名
入	寄付金等	130,000円	
	同窓会本部助成金	50,000円	
	雜収入	500円	預金の利息等
	수 計	2,019,188円	
	大会費用	900,000円	第 61 回大会経費
支	会議室借用費	50,000円	常任幹事会、幹事会、各委員会の開催
	広報活動費	190,000円	「会報」発行関連経費
	通信費	190,000 円	はがき・切手代、宅配便等
	涉 外 費	140,000 円	本部同窓会へ出席、県人会賛助会費他
出	諸 雜 費	130,000 円	ホームページ、コピー代、消耗品等
	予 備 費	419, 188 円	
	合 計	2,019,188円	

以上、提案いたします。 平成30年6月2日

東京同窓会長 金子 鶴男

財務委員長 徳永 道子

村松高校東京同窓会 第61回大会報告

広報委員 石黒勝夫 (高14回)

6月2日(土)、千代田区飯田橋のホテル グランド パレスにおいて第61回定期大会を開催した。

来賓には同窓会本部の荒木快英会長、母校から萱森 茂樹教頭、母校の後援会長で五泉市長の伊藤勝美市長、 交流している長岡工業高校同窓会東京支部の樋口昭支 部長ほか9名の役員、同窓会本部副会長と事務局4名、 五泉会田島嘉夫会長をお迎えし、総勢80名が出席して、平山誠一・松澤綾子両幹事の司会で開会となった。

第一部総会は、校歌斉唱で幕を開け、金子鶴男会長の挨拶の後、荒木同窓会長、萱森教頭、伊藤市長、樋口支部長の皆様から心温まるご挨拶をいただいた。

この後、総務・財務・広報の各委員会から一年間の 活動報告や決算・予算・事業計画等を承認。続いて本 年は役員改選期にあたり、新会長に大橋貞夫氏を選任 して終了した。 第二部の講演会は、札幌松城会の望田武司氏の「北海道命名150年、名付け親松浦武四郎の生涯」と題し、彼の人生を通じて、「サードエイジこそ人生の華」との元気、勇気、やる気の出るお話でした。

第三部の懇親会は、鈴木多喜男顧問の乾杯の音頭でスタート。懇親の場には、ふるさとから取り寄せた地酒も振る舞われ、一年ぶりの再会に無事を喜び合う輪、この機会にミニ同級会を兼ねたクラスの輪など、あちこちで懇親の輪が広がりました。やがて真水道子・山田俊治の両幹事が先導する、「佐渡おけさ」が始まり、大勢の会員と共に大きな踊りの輪が出来上がった。

終わりに応援歌の大合唱で盛り上がり、渡辺八郎顧 問の手締めでお開きとなる。

有意義な一日となり、満足感一杯の想いを胸に抱き ながら再会を約し、ホテルを後にした。

東京同窓会・第61回定期大会収支報告書

平成30年6月2日(土) 於 ホテル グランドパレス

収入の部(単位:	円)	支出の部 (単位:円)				
①会費 (70 名×8,000 円)	560,000	①大会費用	713,171			
②会員寄付金(有志)	34,000	②通信費	30,165			
③同窓会本部祝儀	60,000	③諸雑費	25,222			
④伊藤五泉市長	10,000					
⑤同窓五泉会	10,000					
⑥長岡工業高校東京支部 10 名	20,000					
収入合計	694,000	支出合計	768,558			
一般会計から補填	74,558					
総計	768,558	総計	768,558			



長岡工業高校東京支部役員の方々



望田武司氏の講演



おけさ輪踊りで波多さんの熱唱



会場風景



名司会者の平山さんと松澤さん



応援歌の熱唱

第61回東京同窓会出席者名簿

平成30年6月2日(土) 於 ホテル グランドパレス 3F「白樺」

新潟県立村松高等学校東京同窓会

一次50年0月2日(土	1	於 ホテル クラント	ハレス	31	□↑平」		新潟県立村松高等	子仪果为	们可念云	
来賓・他(19名)	高	校(18名)	高村	交(2	1名)	高村	交(10名)	高档	交(1	1名)
講師	0.3	小池 生夫	10	大橋	貞夫	16	郡司 正大	22	大橋	利光
望田武司 様(高14)	0.3	渡辺 八郎	10	新保	優			22	笠原	和夫
			1 0	宮沢	正由	18	青木 敏和	22	濱田	守
同窓会 本部会長	0 4	鈴木 多喜男	1 0	小島	典子	1 8	五十嵐 力	22	平山	誠一
荒木 快英 様 (高4)	0 4	辻川 登	10	真水	道子	1.8	佐々木 秀和	2 2	柴野	暢夫
同窓会本部 副会長						18	三室 茂和	22	阿部	モヨ子
浅田 光雄 様(高20)	0 5	金子 鶴男	1 1	佐藤	赳	1 8	岩野 ハナエ	22	松澤	綾子
同窓会本部事務局	0.5	山崎 豊吉						2 2	難波	幸博
熊倉 洋子 様(高20))	0.5	樋口 栄二郎				1 9	五十嵐 勝英	2 2	山田	俊治
熊倉 富美子 様(高20)			12	近藤	洋輝	1 9	石黒 久七	22	吉井	修
酒井 加代子 様(高20)	0.7	加藤喜七	12	高岡	五百子	19	佐藤 知伸			
同窓会五泉会会長	07	宮川 裕皓	12	徳永	道子			2 5	林	信子
田島 嘉夫 様(高14)			12	桑原	トム	20	三宅 紀子			
村松高校 後援会長	0.8	鈴木 輝雄				1				
五泉市長	0.8	塚田 勝	13	金子	健二					
伊藤 勝美 様	0.8	吉井 清	13	小黒	雅晴					
村松高校 教頭	0.8	片柳 ムツ	13	武藤	正昭					
萱森 茂樹 様	0.8	木村 孝子								
	0.8	波多 ミサエ	14	石黒	勝夫					
長岡工業高校 同窓会	0.8	山西 愈佐子	1 4	熊倉	道雄					
東京支部長 樋口 昭 様	0.8	久我 マキ	1 4	山田	俊治					
副支部長 大関 稔 様			1 4	斉藤	正克					
副支部長 金井 博光 様	0.9	石黒 四郎	1 4	加藤	延雄					
副支部長 原 勝英 様			1 4	猪口	成吾					
理事長元井忠夫様			14	野澤	良彬					
事務局長 成田 修 様			14	片山	徳子					
統括理事 川村 吾一 様				C-104 V	AUTO BU					
担当理事 山川 昭男 様										
統括監事 片桐 謙一 様										
監 事 大淵 平佑 様										
AND								出席和	省合計	79名



大橋会長あいさつ

7不少17亿向寺子仪果尔问》



荒木同窓会長あいさつ



伊藤五泉市長あいさつ



萱森教頭あいさつ

平成30年5月末現在の会員数260名 近年の平均大会出席者数100名 来年度も大勢の皆様方にご参加頂きますようお待ち申し上げております。

未来ある松高

村松高等学校 校長 渡辺 欣彦

村松高校東京同窓会の皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。日頃から松高の教育活動に御理解と御支援を賜り、心より感謝申し上げます。松高は、今年度107年目を迎えました。今後も地域と連携しながら、松高の一層の発展のために、教職員一丸となって努力してまいります。

最初に、今年度の新たな取組について報告いたします。 平成30年度から32年度までの3カ年間、新潟県教育 委員会の「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づ くり推進事業」の実施校として、本校が選定されました。 県内には県立高校が86校あり、そのうち本校を含めて 13校が選定されました。この事業のねらいは、新潟県 教育委員会が示した「県立高校の将来構想」を実現する ために、社会に開かれた教育課程や生徒の夢を叶えさせ る進路指導の構築に向けて、調査・研究や企画の運営を する学校を支援することです。松高ではこの事業を通し て、「総合選択制の高校」を目指した学校づくりの視点 から、地域連携などを通じて地域産業を活性化する人材 の育成に努めていきたいと考えております。 10月3 日には、この事業の一環として、南部郷総合病院の院長・ 梨本篤様、看護部長・吉澤浩子様を講師としてお招きし、 「五泉市の医療状況と医療系職業について」と題して、 1・2学年合同進路講演会を実施しました。この講演会 を通して、医師や看護師の仕事、病院施設における多様 な仕事等について理解を深め、将来の進路をより深く考 えることや、地元への就職を希望している人だけではな く、多くの人に地元に貢献する、あるいは社会に貢献す る意識を持ってもらうことができました。この事業を3 年間有効に活用し、キャリア教育の充実や生徒一人一人 の学校生活の支援、松高の特色ある教育活動のPRを行 っていきたいと考えております。

次に、今年度の松高の様子を報告いたします。今年度は、1学年53人、2学年72人、3学年84人、計209人からのスタートとなりました。

6月6日に行われた体育祭では、晴天にも恵まれ、地域の方からもたくさん来校していただき大変盛り上がりました。各学級ごとの競技の他に、各学年を縦割りにした3軍での競技も行い、3年生がリーダーシップを発揮して、1・2年生を上手くまとめ上げていました。

部活動では、インターアクト部が、第5回新潟県高等

学校ボランティア大会(第32回新潟県高等学校総合文化祭ボランティア部門)で優秀賞を受賞し、来年の第43回全国高等学校総合文化祭佐賀大会ボランティア部門への派遣校として推薦されました。また、2年生の倉林裕希さんが、新潟県高等学校総合文化祭第32回写真専門部展個人部門で奨励賞を受賞しました。また、1年生の森川海斗さんが、第38回全国高等学校空手道選抜大会新潟県予選会で第3位となり、富山県で行われた北信越大会に出場しました。

3年生の進路状況については、大学進学希望者が4人、 短大進学希望者が9人、専門学校希望者が21人となっ ています。また、就職希望者は49人おり、現在47人 が内定をもらうことができ、近隣の高校の中で1番の内 定率となっています。松高では、キャリア教育の充実に 力を入れており、一人一人の進路希望が達成できるよう、 1年生は職場見学・上級学校見学(夏季休業中)、2年 生はインターンシップ(夏季休業中)、3年生は五泉市 合同企業説明会(6月本校会場)・面接指導(7月以降) を中心に、3年間を通して計画的・継続的にキャリア教 育を行っています。

次に、7月に新潟県教育委員会が公表した「平成31年度~平成33年度県立高校等再編整備計画」についてです。この計画では、松高の平成31年度から33年度までの募集学級は、現1学年同様2学級となっています。新潟県教育委員会は志願者数を重要視していますので、今後は、志願者数が80人を超えれば1番良いのですが、最低でも70人台を確保していくことが重要になっていきます。参考に、新潟県教育委員会は望ましい学校規模を1学年当たり4学級から8学級としていますが、実際には、県立高校80校(中等教育学校6校を除く)のうち、平成32年度までに4学級未満の学校が31校(約39%)となる予定です。

最後に、松高は約97%の生徒が五泉市内の4中学校 (村松桜・五泉・五泉北・川東) 出身であり、地域密着 型の高校といえます。正面玄関前には、同窓会からの御 寄付により、「誠を尽し、志をたて、必ず実行する」と 書かれた懸垂幕を掲げさせていただきました。この松城 精神を確実に受け継ぎ、松高を母校として、心から愛し、

「誇りを胸に」活躍してくれる有為な人材の育成に今後 とも努めてまいりたいと考えております。今後とも、な お一層の御厚情を賜りますようお願い申し上げまして、 新年の御挨拶とさせていただきます。

平成30年村松高等学校の本部同窓会総会に出席して

平成30年度母校同窓会の本部総会は、昨年8月19日(日)、午後4時から村松の割烹「新瀧」において、多数の会員が出席して開催された。

東京同窓会からは、大橋貞夫会長、金子鶴男相談役、 佐藤赳副会長兼総務委員長、石黒四郎幹事、平山誠一副 会長、高岡五百子広報副委員長、松澤綾子財務副委員長 の7人が出席した。



荒木快泳同窓会長のご挨拶

はじめに荒木会長の挨拶があり、松高に看護科を設置すると云う取り組みは、諸問題があり実現しなかったが、今後とも役員と「松高を存続発展させる会・阿部律雄会長」が強力にタッグを組み、特色ある学校を目指し努力する必要がある。地域の人達が、子弟を村松高等学校に入学させたいと思うような学校作りは一朝一夕に出来るものではなく、「松高を存続発展させる会」の運動が地域に根差し、卒業生を含む大きな輪にする事が大切なので、是非ご理解とご協力を賜りたいと締めくくられた。



大橋貞夫東京同窓会長

大橋会長からは、6月2日に開催した第61回東京同窓会定期大会に於いて会長に就任したが、会員の減少に歯止めをかけるべく、魅力ある会の運営に苦労している。卒業生の皆さんには本部同窓会のみならず、東京同窓会にも積極的なご参加を希望したい。各分野で活躍される先輩は大勢居られるので、何かと参考になる事があると思うので大いに利用してください、と挨拶。



渡辺欣彦学校長のご挨拶

渡辺欣彦校長より松高の現状報告では新入生が53人で、全校生徒数は209人であるが、生徒活動は各方面で活発に続いており、今後とも「松城健児だより」を発行して、本校の特色ある教育活動を広くPRしていく事が必要であると説明。

続いて、荒木会長を議長に選出、報告案件・審議案件とも事務局が簡明に説明し承認。役員改選では6年間務められた荒木会長が退任され、15回生の高岡雄一氏が新会長に就任された。なお、副会長以下各役員は従来通り歴任することを決定した。



退任される荒木会長に花束贈呈

右は新しく同窓会長 に就任された15回生 の高岡雄一氏である。

皆様のご支援を頂き 同窓会のみならず、母 校の発展にも尽力する 決意であると表明。



史林館に集う臥龍が丘同窓生

近藤 洋輝 (高12回)

1. はじめに

筆者は旧村松町生まれであり、終戦の翌年5月のフェーン現象下での大火(被災は1300戸余)では強烈な幼児体験が記憶にある。その後は戦災地に近いような疲弊した状況が生じたはずであるが、それほど深刻な記憶はない。村松小学校、愛宕中学校の9年間は、街外れにあって火災を免れていた旧陸軍兵舎を校舎として、また弾薬庫跡などもそれと知らずに遊び場として過ごしてきた。

しかし、村松高校に入学すると、本来の教育施設としての校舎をはじめ、なにもかも新鮮に感じた。各専門分野に造詣が深く、強い情熱が伝わる先生方が多かった。中でも英語の本間桂先生は、天の一角を見上げながら語る哲学者の風貌で、話の内容とともに魅了された者は同期を含め少なからず、先生宅によく押しかけた。そんな仲間の一人に、茂野本史君がいる。彼は、早稲田大学で西洋史を専攻し都立高校で世界史の教鞭をとった後、都下の小金井公園に接する自宅近くに、書庫に加え学習室もある世界史図書館:「史林館」を2004年に設立した。本稿はこの史林館を巡る同窓生の話題を述べる。

2. 史林館の果たす役割

史林館の「史林」が歴史の書を意味する様に、蔵書の分野は、西洋史が主体ながら、東洋史、日本史もカバーしており、また文芸など多分野の全集も含まれる。学習室の活用として、茂野君は地域のグループのリーダーとして毎月2回世界史及び英書の学習会を開催している。そのような史林館の意義を知ってセミナー的活用を思い立ったのは、彼と特に親しい間柄で、武蔵野美術大学を経て画家として活躍している澤雅久君である。彼の提起の下に、両人の呼びかけに応じて、2010年以来、上記の高校時代の仲間を中心に男女を問わずほぼ同期生が加わり毎年秋に一度集まり、誰かが講師となって、自分の関わってきた分野での知見や話題を提供し、質疑応答と懇談をする有意義な機会が提供されてきた。

武蔵野の国はかつて雑木林が広く分布しており、例えば、昭和30年代までは、上野に向かう列車からも特に 鴻巣と桶川間ではほとんど切れ目なく雑木林が連なって 見えた。その武蔵野の面影が今も残る小金井公園に接す る、史林館の学習室の窓辺には、奇しくも恩師の名と同 じ桂の樹林が連なっている。秋の日を浴びた風景の中で、 充実した蔵書に感銘しながら、村松高校において同じ時 間と空間を共有し、その後も分野こそ異なるが同じ時代 を生きてきた仲間とともに、学際的な、あるいは異分野 の世界に接する機会として過ごすのはかけがえのない機 会となっている。

筆者は、大学の2年までは構内の駒場寮で過ごしたが、

洗面所にある落書きには、朗々とした新作の漢詩が並ぶなど旧制一高時代の雰囲気がまだ残っている中で、当時好んで歌われた寮歌の、「芸文の花咲き乱れ・・・学ぶもうれし武蔵野の秋の入日はうたふべく万巻の書は蔵にあり・・・」とある字句が、いまがまさにそうだと、年月を遥かに超えて耳元に蘇ってくるのを覚える次第である。

3. セミナーの講演者とテーマ

以下、これまでの講演者(進学先、専門)とテーマを 示して、専門分野の多様性などをご確認いただければ幸 いである。テーマによっては2回目に及ぶこともある。

- ◆ 第1回(2010年)および第2回(2011年):茂 野本史(早稲田大学、西洋史):「高校で習わなかっ たポーランド史」
- ◆ 第3回(2012年): 筆者(東京大学、物理): 「地球温暖化の科学的知見と国際的取り組み」
- ◆ 第4回(2013年):阿部淳(新潟大学、医学): 「医学と疫病の歴史・医療史こぼれ話」
- ◆ 第5回(2014年):中村雅臣(中央大学、法律): 「日本の治安が世界一良い理由」
- ◆ 第6回(2015年)および第7回(2016年): 関根忠(新潟大学、教育):「良寛と会津ハー」
- ◆ 第8回(2017年):熊倉道雄(京都大学、経済): 「アベノミクスの光と陰」
- ◆ 第9回(2018年):澤雅久(武蔵野美術大学、 美術):「パウル・クレーの作品を観る」

なお、次回(2019年)は茂野君の「高校で習わな かったスコットランド史」を予定している。



参加者の記念写真の一例

4. おわりに

本稿を書くにあたり、関係資料の提供を受けた史林館 の茂野君に、また、毎回送迎や会場準備等サポートを担 当する茂野・沢君の両奥方に参加者を代弁して謝意を表 する。また、よき友人たちに恵まれた幸運に感謝したい。

…生きがい… として

高岡 五百子(高12回)

今、生きがいは? と問われたとき、美味しい食事を したり、旅行に行ったり、楽しい音楽を聴いたりするこ と等と答えてしまうでしょう。

私はそれらとは別に、今日まで過ごしてきた人生の中でも特に楽しさを感じ、生きがいとして続けていることがあります。

その1 ~書道~

もっと上手く「書」が書けたらと思い、墨芳会に入り 書道を始めたことでした。初めは半紙に楷書、行書、草 書、かな、の練習から始まり、しばらくは練習の日々が 続きました。やがて作品展に出展する条幅の練習に打ち 込み、今では楽しみの一つとして続けているのですが、 楽しさの中にも限りない難しさも感じて居り、これから も、ひたすら精進あるのみだと思っております。

その2 ~ミュージックベル~

ミュージックベルは書道とは違い、 楽曲の各パートを受け持ち、仲間の ベルと合わせる難しさがあります。

難しい曲にも取り組み、時間をかけて練習に励んでいるところです。 今ではイベントに招かれたりしていますが、敬老会や慰問やクリスマス会に出向いたり、大人のコンサートなどに出演しています。緊張の中での演奏会も、仲間の心がひとつになって演奏でき、拍手を浴びた時の楽しさ嬉しさは格別のものがあります。



私は「手作り洋裁」の指導をしていますが、生徒さんには製図から仮縫い、本縫い、そして出来上がるまでの 過程を充分に楽しみながら作り上げて欲しい、と願って おります。

自分の好みに合わせて作り、完成していく喜びは格別ではないかと思うのです。私は自分の好きな事として、長く続けて行くことの大切さは、自分自身の生きがいに繋がっているように思います。

〜生きがい〜 とは、生きていることに意義や喜びを 見出して感じる心の張であり、心の支えとなる目標に近 づいていく事だと思います。

女流日本画家の小倉遊亀のことば「**梅のように 老いを生きたい**」は、私の大好きなことばです。



手作り洋裁展







是古木林聖代即今多雨霧哲时不手莫待说养书告19波佛场唯一在我封出事柳笙秋天选白事城堪君此别多何好拉写的"杨尚祷居巫峡帝—将数

訛り(方言)について

鈴木 長五(高15回)

私は松高15回生で、現在は74才を超えた。高校卒業以来かれこれ50年近く首都圏での生活を過ごした訳だが、今でも入学して間もない頃、旧村松町で経験したカルチャーショックの一つを鮮明に覚えている。

いわゆる英語でいう所の Come here(カムヒアー)を 旧五泉町では「おめさん、こっちにきなせや」と言う。 これが村松町では同じ意味を言うのに、「オマンコッチニ キネヤ」とクラスメイトが言ったのに驚いた。何故なら 五泉・村松間は距離にすれば僅か7 k m前後であろうか。 たったそれだけしか離れていないのに、こんなにも違う のである。また、それを聞いた瞬間には何だか不思議な 事に、自分の耳にはとてもオシャレでカッコ良く響いた。 要するに都会風なのである。何故かと言われても、説明 のしようがない。それまでは正直言って、村松の方には 甚だ失礼な話ではあるが、五泉の方がやや都会度が高い というイメージを私自身は持っていた。

私は五泉町のド真ん中、本町通りの生まれではあるが、 松高に入学して、蒲原鉄道の村松駅に降りて村松の下町 を通り、学校町の方向へ曲がって通学する。その時になって初めて気が付いたのだが、何とまあ道幅が広く、五 泉の本町通り等とは、まるで比べものにならない。これ は全くのうかつで、自分の無知を恥じるだけだが、「そう か、ここは城下町であった」、である。つまり五泉よりも こちらの方が、より都会であったのだ。

暫く経ってから学校で配られた生徒手帳に松高の校歌が載っていて、確か歌詞の二番の中に"文化の花の咲くところ"という箇所があった。それで、この地方の文化の中心は村松であった事を改めて確信し、納得を得ることができた。村松の歴史を少しは知るようになったのはその数十年も後のことである。

訛りといえば、石川啄木の短歌に"故郷の訛り懐かし 停車場の人ごみの中にそを聞きに行く"というのがある。 私達年代こそがこの詩をしみじみと感じられる最後かも知れない、と思うことがある。詩に出てくる「停車場」という言葉も懐かしい。村松・五泉弁に限らず、ものの言い様には、常にそこで生まれ育った者達の時代背景とその変化がある。夏の暑い日に「ヘンデ川に水アブリ行ゴデバ」~(早出川に水泳に行こうよの意)は文字にしただけではよそ者には訳が解らなくても、我々古い五泉人には或る共有の世界観を感じることが出来るのだ。

早出川の上流は村松の川内であり、きれいな清流川である。現在その近くに住んでおられる方々に、「ヘンデ川」と発音したら果たして分って頂けるかどうかは今の私では知る由もない。

東京には毎年、地元出身者と首都圏在住者の交流会(五 泉応援団)が開催されているが、年々参加人数は減っている。これも私見ではあるが、望郷の念、地元愛、など 人としての大切な心はいつの間にか忘れられたか、薄れて行った証ではなかろうか。私には、上越新幹線が裏日本と表日本の区別を無くし、テレビの普及と同時に方言の特徴も消して終い、いつでも新潟に帰れるようになったせいであるように思えてならない。

最近の話であるが、或る時何かの用があって、北五泉から新潟、大宮経由で帰宅したことがあった。北五泉駅に複数の女子高校生のグループがやってきて、何やら楽しそうにペチャクチャ喋っていた。多分五泉高校の生徒が列車に乗ろうとして集まってきたのであろう。聞くともなく聞こえていたが、ふと気が付いてみるとみんな標準語に近い言葉で喋っている。ましてや五泉弁など誰も使ってはいないし、その方がまた今風でカッコイイのだ。

啄木は明治の人で、今の時代と比較するにはかなり無理があるが、昭和生まれの自分でもあのお喋りには今昔の感がある。 訛りは言葉のリズムでもあり、要は自分の日常生活のリズム感が気が付かない内に周りとは相当にズレてきているとしか思わざるを得ない。 寂しい事だが今の自分には黙って受け入れるしかないのであろう。

を回す、 電車を待つ間は、 局の仕事を打診されました。 ようになったのではと思います けては筋トレに励んでいます。 り外体が 昨年十一月、 の筋トレをする。 て受けることとしました。 朝夕の通勤ラッシュのことを考え、 もうすぐ75歳の後期高齢者入りですが、 乗車中は、 動く今しかないと思い、 ふるさと新潟のためにお役に立つの 上野にある新潟県 座れば手のグーパ 足の屈伸、 ちょっと元気になりました。 休みの日は、 立っている時は足の先と 声が掛かったとき 例えば、 足上げ 家内とも相談 近くの公園で 人会から事 常に何 時間を見 運動 ス・

姿を見てもらおうと思い、二年程前に孫が通 にリズムが生まれ、 学校児童の通学案内・交通指導の仕事を始め 孫で小学校に通う男の子に、 一時間の仕事ですが、これを始めたら、 働くことを表しているということのようで 五時半に起床し、 周りの人にお役に立つ 午前は 人が体を動 一時間余、 私が働 身体に切れが出 朝食を済ませ 楽 動 午後は一 動きが いてい にするこ かすこと 求

夜もぐっすり眠れるようになりました。

身体を動かすことで、

効用 石黒 勝

14

日

働

短歌の楽しみ

高岡 光夫(高15回)

高齢者になると、人とのコミュニケーションが大事だと言われる。中心になるのは会話で、それはお喋りだ。お喋りはキャッチボールに似ていて、やり取りがないと続かない。お喋りをしていると、リズム感のある言葉に気付くことがある。5音とか7音の言葉で、俳句や短歌など短詩として馴染みがある。

私は60代になってから、それまで気付かなかった 7・5調の言葉に興味が出てきた。日常、ふっと頭に浮かぶ言葉をメモしてみた。メモを読み返してみると7・ 5調や5・7調の短歌らしいものが出来ることがあった。 定年退職後の再就職先は都内にあり、休みの日に新宿

定年退職後の再就職先は都内にあり、休みの日に新宿 のカルチャーセンターの短歌講座を訪ね、「短歌実作」という講座を受講した。その講座で次のことを教わった。

- 短歌では31音という定型を守る。
- 音数の数え方を身に付ける。
- 読み手のことを考えてつくる。

再就職も期間満了となり退職を迎え、地域デビューしてから、近隣で探していたところ、住まいから近いある大学で短歌講座を見つけ、半年で10回・1回90分間の授業を受けた。費用も安く、高齢者には嬉しいものであった。この講座は、講師も生徒も真剣な中にも和やかさがあり、4年目の平成30年、高座生の歌を纏めることになった。各自が今までの作品の中から15首を選んで提出した。

私が提出したのは次の15首である。

○ 正月の 身体のゆるみが 気になって 走って帰れば 七草のかゆ

(正月のご馳走を食べ過ぎ、体重管理に苦労していた時 に詠んだもの。)

○ 五時間で 完走めざす このレース 入りの十キロ 押さえて走る

(初マラソンは、30キロ過ぎてからの身体の痛みと闘いながら6時間で完走した。)

○ ふるさとの 越後白山 滝谷川 岸辺に立てば 母の思い出

(ふるさとの白山は1012mの高さで有名ではない。 幼い頃から眺めた山はいつでも私を迎えてくれる。)

○ ふるさとの 団子みやげに 花愛でる 師は90歳 国語担任

(春になると関東地区の同級生と、ふるさとの師を囲ん で桜を楽しんでいる)

○ シクシクと 腹の感覚 気になれば 明日は胃カメラ 今宵は早寝

(一昨年の春にうけた胃カメラ検査の前夜に詠んだもの である) ○ モニターの 画面見つめて 医師ポツリ 癌の告知に 返事はできず

(胃カメラが喉を通っているので返事ができなかった。)

○ ステージⅡ 全摘となる 吾の臓腑 加齢ならばと 折り合いつける

(70歳越えての病気は、加齢によるものと思い、手術を受ける決断は早かった。)

○ 全摘後 CT検査は 4回目転移はないと 医師はほほえむ

(胃の全摘手術を受けた後、抗がん剤治療は選択しなかった。医師から毎月検査をした方が良いと言われた。)

○ お前より 君と呼ばれる 方がよい 病のあとなら うなずくしかなし

(病の後は、家族の支えに感謝の言葉しかない。妻から 「きみ」と呼んで欲しいとリクエストされた。)

○ 来世も 一緒になるかと 囁けば 丼食みつつ 妻首をふる

(来世も一緒になってくれるかどうかは、妻の胸の内。 現世では、これから罪滅ぼしをしなければならない。)

○ 吸うよりも 吐くが大事と キナバルに 登りし人の 食盛んなり

(キナバル山に登れるのか、と思うような華奢な女性が かつ丼を食べていた。登ったのは本当のようだ。)

○ 転倒の リスク避けんと 手を添えて 肘の細さに 力ゆるめる

(介護の仕事中、日常動作が出来る有り難さに気付く。)

○ 歩きたき 人もリスクを 抱えれば 椅子を勧める 吾は悲しい

(施設利用者の立場からは歩いた方が良い。しかし、施 設側からは転倒リスクを避けたい。間に立ち椅子を勧 める自分の姿勢に悲しさを覚えた。)

○ 学院の 足掛け4年の 受講歴 肩肘張らぬ 空気を好む

(講座の半分は、受講生の相互批評だが、講義と異なる刺激が楽しい。)

○ 教室の 後半占める 歌批評 歩み越し道 解釈に出る

(作り手と読み手が短歌を通して、いかにイメージを膨らませる事が出来るか。歌の世界は広い。)

短歌を詠むことは、目で見たものや耳で聴いた事を 確かめる作業だと思える。じっと対象を見る事によっ て、新しい発見をしたり、自分の心の動きに気付くこ とがある。31音という詩の器に日々の想いを託すこ とは、生きる日々の記録といえる。高齢になると1日 が早い。まして後期高齢期となれば尚更だ。

元気に過ごせる今という時間の記録を短歌に込めて、 日記代わりにしていきたいと思う。

農のある人生

佐藤 赳(高11回)

ベランダ農園から定年帰農まで、家庭菜園を始めたい と考えている人が多い中、2008年に東京都が実施し たアンケートで、東京都在住者の61%が「農業をした い」と思っている。年代別では20代がトップの69% と若い世代が増え、定年帰農代は13%となっている。 何と言っても採れたては最高でそれを食べたい、買うよ りは高くなる物もあるかと思うが……

そんななか、桶川の地に住んでから懇意にしている農 家の方から畑をやれなくなったし、家の息子達も勤めに 出ており畑仕事も出来なくなったから、草を生やさなけ れば自由に使って良いよ、と申し出られ約100坪を借 りることにした。連作障害を避けるため、20坪位づつ 使い回しながら野菜作りを始めることになった。

期待と不安で始めた私の家庭帰農菜園、次々と起こる 出来事に一喜一憂しながらも、先ずは土を耕すのに一苦 労する。そこで手頃な小さい耕運機を手に入れ、農家の 人に教わりながら、見よう見まねで菜園は出発した。

これまで挑戦して作った野菜は以下である。 ジャガイモ、サツマイモ、里芋、トマト、茄子、ネギ、 アサツキ、玉蜀黍、小松菜、春菊、大根、落花生、等 他にも作ってみたが、出来不出来はいろいろであった。

~失敗したこと~

農業の本に記された「里芋の逆さ植え」に、里芋を逆 さに植えつけると多収穫になるとあり、やってみた。但 し、「逆さ植えは芽が出るまで時間がかかる」とあり、心 配した通り全く芽が出て来ない。深く植え過ぎたか、雨 続きの所為か、確かめようと掘り起こして見ると腐って いたので全て掘り出し、やり直す羽目になった。そのま ま鵜呑みにするのも素人ならでは? か。

~ビックリしたこと~

同窓の皆さんはご存知ですよネ! 枝豆と大豆が「全 く別の物」であると思い込んでいる人が、余りにも多い のには本当にビックリした。

~ジャガイモの枝にトマトがなったこと~

「そんなの珍しくない」と農家の人は云う。調べると ジャガイモとトマトは共にナス科なので実を付けること は特に珍しくないそうだ。

~堆肥づくり~

畑を借りたのが5月、一番雑草が元気に生える頃で約 100坪の除草は一週間ほどかかる大変な仕事であった。 畑の真ん中に穴を掘り囲いをして草を入れ、鶏糞を撒き、 草を重ねて踏み何回も繰り返して、シートで覆う。

発酵すると75℃位まで温度が上がり、雑草の種や害 虫、病原菌も死滅するそうだ。化学肥料は土が堅くなる ので、なるべく控えた方が良いという。

健康促進!酢玉ねぎの作り方

大橋 貞夫(高10回)

材料 玉ねぎ2個(500g)又は紫玉ねぎ(ポリフェノール類のアントシアニンを含み、目や肝臓機能の向上や 動脈硬化の予防に効果的である。)

A: 黒酢・・・3/4カップ、 水・・・1/4カップ

A:蜂蜜・・・1/2カップ、 塩・・・小さじ1杯

|作り方|| 玉ねぎの皮をむき、スライサーで薄切りにし、30分以上放置する。切った玉ねぎは空気に触れると 栄養価が高まるので、それを耐熱ボウルに入れる。

小鍋にAを入れ煮立ったらボウルの玉ねぎに回しかける。常温まで冷まし、ガラス容器に移し冷蔵する。

- 効能 1) 血糖値を下げる――血糖値を下げるインスリンの分泌を促進する。
 - 血流の良化――玉ねぎのイソアリインと酢酸が血中脂肪を剥がして排出、血流が良化する。
 - 腸内フローラの良化――加熱した玉ねぎはオリゴ糖が豊富で善玉乳酸菌のビフィズス菌の餌になる。
 - 4) 血圧の正常化――玉ねぎに含むポリフェノールのケルセチンは高い抗酸化作用があり、血管内壁に付く 脂肪を排出し血管をしなやかにして高血圧が改善。
 - *野菜サラダ、すき焼き、みそ汁などに混ぜて、毎日50gは食べたい。



We are SPORTS!

株式会社 リンク

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-6 山城第三ビル2F

TEL: 03-5283-7454 FAX:03-5283-7448

עוספוסלניספוסלוספוספוספוספוספוספוסליסוסלניספוסלניספוסלניספוסליסוסליספוסלניספוסליסוסליסוס

第28回松高東京同窓会親睦ゴルフ大会

平成30年4月5日(木)越生ゴルフクラブに於いて第28回親睦ゴルフ大会が開催され、8名が参加した。 競技は、ハンデ査定を全員新ペリア方式で計算して行われ

た。成績は下記の通り。

成績

優勝:佐藤克、2位:斉藤豊、3位:漆原茂参加者

金子 鶴男、大橋 貞夫、岡 信子、平山 誠一 今井 英雄、斉藤 豊 、漆原 茂 、佐藤 克



第29回松高東京同窓会親睦ゴルフ大会

平成30年10月3日(水)越生ゴルフクラブに於いて第29回親睦ゴルフ大会が10名の参加を得て新ペリア方式で催された。次回より過去の実績からハンデを割り出し、新ハンデ戦の予定。成績は下記の通り。成績

優勝: 斉藤 豊、2位: 佐藤 克、3位: 濱田 守参加者

岡 信子、平山 誠一、濱田 守、難波 幸博 金子 鶴男、斉藤 豊、佐藤 克 大橋 貞夫、今井 英雄、漆原 茂



第34回 和紙はりえ作品展開催

木村孝子(高8) さん所属の美杉会はりえ展が、 $2018年5月29日(火) \sim 6月2日(土)$ にわたり銀座3丁目にある美術家連盟画廊6Fにおいて開催された。31日に同窓各位と拝見して来たが、皆様方にも必見の価値ありと思う次第。







私たちは『笑顔と真心の企業活動』を企業理念としております。



住所:〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町2-243-2

電話番号: 048-663-8151 FAX: 048-663-8152

関自貨第 1172 号

閉校の校舎の影や秋夕焼	校庭に日暮の近し銀杏の実	地虫鳴く校舎の影の広がれり	肋木の磨り減りてをり秋深む	学校の低き蛇口や秋の暮	黒板にさよならの文字露の秋	教室の床に秋日の当り	古校舎桜紅葉の影に	
校	日日	る	磨	低	3	床	桜	
舎	暮	校	9	き	よ	に	紅菇	
图	が	舎の	減り	虹口	なら	秋まり	某の	塩
P	ī	影	t	や	0	0	影	塩原 知子
秋ま	銀	0	を	秋	文	当	15	局 十知
秋かりかけ	否	ム	*)	の	子爾	9	入	五子
C H	生	机	深	春	路の	17	')	回
	^	1)	がお		秋	,		

会員をご紹介ください。~会員募集中~

東京同窓会の運営組織の拡充と財政基盤の確立のために、村松高等学校をご卒業された方やご支援いただける方をご存知でしたら、是非、ご紹介をお願いいたします。 ご紹介いただきましたら、事務局の方から会報誌見本と振込用紙を同封してご案内いたします。

東京同窓会のホームページ(下記奥付のアドレス参考) には、母校の沿革、校歌、活動内容、年間行事などをは じめ、会報誌「臥龍が丘は緑なり」の第1号から第59 号まで閲覧できます。

一人でも多くの方のご入会をお待ちしています。

編集後記

平成最後の会報誌をお届けします。
平成最後の会報誌をお届けします。
れています。確かに、100歳を超える
れています。確かに、100歳を超える
が6万人を突破しているのですから夢で
なくなりました。これも、医療が充実し
からか、栄養摂取が向上したからか、社
の仕組みが近代化したからか、いずれに
ても高齢化に向っています。そうした中で
会員の皆さん、まずは健康で生活すること
これが大切です。その元気な様子を、是ま
これが大切です。その元気な様子を、是ま
からのご寄稿を切にお願います。
からのご寄稿を切にお願いします。

皆様からのご投稿、お待ちしています!

会報誌「臥龍が丘は緑なり」は、年1回発行していま すが、この会報誌は、会員の皆様相互を結ぶ唯一の情報 誌です。

次のような情報などがありましたら、どうかお気軽に 下記までお寄せください。

- ・同級会や還暦同窓会などの開催情報
- ・旅、地域の情報
- ・趣味や日常思っていること
- 会報誌を通じて伝えたいこと
- ・研究・発表したいこと etc

★ 字数と写真

(本文)

- ・半ページの場合: 1,150字程度(題名、名前を除く)
- ・1ページの場合: 2,300字程度(同上) (写真の挿人)
- ・写真1枚当たり300字を本文から減ずる。

★ 締切り

10月末日

原稿送付先

☆ 石黒 勝夫 宛

〒166-001 東京都杉並区阿佐谷北6-32-19

Tel • Fax : 0 3 - 3 3 3 0 - 4 5 6 4

E - mail : isgrkto-214@outlook.jp

文字データがある場合は、メール送付をお願いします。

平成31年2月 第60号

表紙の題名・題字は佐伯益一氏(旧中27回)の書

発行人 新潟県立村松高等学校東京同窓会 広報委員会

新潟県立村松高等学校 東京同窓会事務局

〒190-0011 東京都立川市高松町 2-37-18

Tel·Fax 042-527-6482 (吉井 清)

東京同窓会HPアドレス: http://www.matsukou-tokyodousoukai.net